

## 日本の株式市場

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

### 市場の動向

日本の株式市場の代表的な指数である東証株価指数(TOPIX)は、2月24日比で0.51%上昇しました。  
週初は、前週末に米国の長期金利低下などを受け、外国為替市場で円高米ドル安が進行したことなどから下落しました。その後は、現地時間28日に行なわれたトランプ米大統領の議会演説が波乱なく終了したことから投資家の不安が和らいだことなどから、上昇に転じました。米国株式市場で史上最高値が更新されたことも上昇の要因となりました。週末にかけては3月の米利上げの可能性の高まりなどを受け利益確定の動きも見られましたが、日本株式市場は週間では上昇しました。

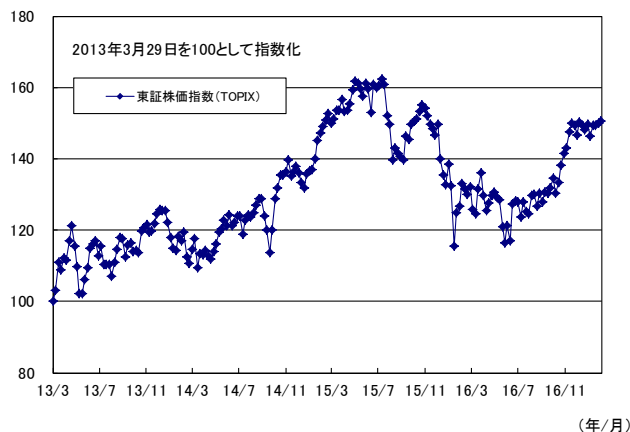
### 今後発表予定の主な経済指標など

- 8日 経常収支(1月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊	先週の騰落率	先週の相場動向
騰落率がマイナスの場合: 😞	<b>0.51%</b>	😊
騰落率が横ばいの場合: 😐		

<期間> 2013年3月29日～2017年3月3日



東証株価指数(TOPIX)	2017/2/24	2017/3/3	騰落率
	1,550.14	1,558.05	0.51%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

東証株価指数(TOPIX)の指数値及びTOPIXの商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利及びTOPIXの商標に関するすべての権利は東証が有します。

## 世界の株式市場

### 市場の動向

世界の株式市場の代表的な指数であるMSCI-KOKUSAI指数は、2月24日比円ベースで、2.62%上昇しました。外国為替市場における円安進行も主な上昇要因となりました。  
米国株式市場(現地通貨ベース)は、トランプ米大統領の議会演説でインフラ投資拡大や減税策などが維持されたことや、市場予想を上回る2月の米ISM(サプライマネジメント協会)製造業景況感指数などが支援材料となり、上昇しました。  
欧州株式市場(現地通貨ベース)は、トランプ米大統領による議会演説後に米国株式市場が上昇したことや、仏大統領選についての世論調査で極右政権誕生への懸念がやや後退したこと、欧州大手企業の堅調な決算内容などが支援材料となり上昇しました。  
アジア(日本を除く)オセアニア株式市場(現地通貨ベース)は、市場予想を上回る2月の中国財新製造業PMI(購買担当者景気指数)や10-12月期の豪GDP(国内総生産)などが好感され、上昇しました。

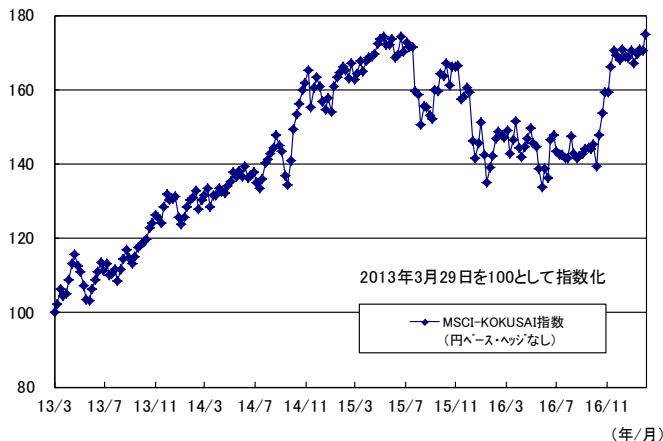
### 今後発表予定の主な経済指標など

- 10日 米雇用統計(2月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊	先週の騰落率	先週の相場動向
騰落率がマイナスの場合: 😞	<b>2.62%</b>	😊
騰落率が横ばいの場合: 😐		

<期間> 2013年3月29日～2017年3月3日



MSCI-KOKUSAI指数 (円ベース・ヘッジなし)	2017/2/24	2017/3/3	騰落率
	2,671.85	2,741.79	2.62%
円/ドル	112.35円	114.50円	1.91%
円/ユーロ	118.74円	120.94円	1.85%

<指数出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成  
<為替出所> 当該日ロンドン時間16時発表のWMOロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

MSCI-KOKUSAI指数は、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

## 日本の債券市場

### 市場の動向

日本の債券市場の代表的な指数であるNOMURA-BPI総合は、2月24日比で0.03%上昇しました。

前週末にかけて米利上げ観測の後退を背景に米金利の低下圧力が日本にも波及したことから、週前半の日本債券市場は上昇しました。週中には、日銀の国債買入れオペで中期国債の買入れ減額が発表されると、需給悪化が意識され上げ幅は縮小しました。その後、米利上げ観測が高まると、米金利の上昇に連れて下落しました。しかし、週末の日銀国債買入れオペが需給の引き締まりを示す結果となったことなどから再び上昇に転じ、日本債券市場は週間では小幅上昇となりました。

長期金利の指標となる10年国債利回りは、2月24日比で上昇(価格は下落)し、0.078%となりました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 9日 毎月勤労統計(1月) など

	2017/2/24	2017/3/3	変化幅
日本10年国債利回り*	0.068%	0.078%	0.010%

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

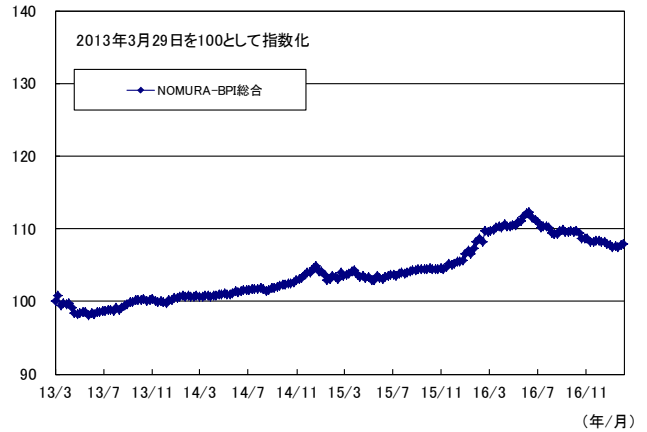
先週の騰落率

0.03%

先週の相場動向



<期間>2013年3月29日～2017年3月3日



NOMURA-BPI総合	2017/2/24	2017/3/3	騰落率
	378.20	378.33	0.03%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

NOMURA-BPI総合は、野村証券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他の権利は野村証券株式会社に帰属しております。また、野村証券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

## 世界の債券市場

### 市場の動向

世界の債券市場の代表的な指数であるシティ世界国債インデックスは、2月24日比円ベースで、1.04%上昇しました。

米国債券市場(現地通貨ベース)は、イエレンFRB(米連邦準備制度理事会)議長をはじめFRB高官から早期の利上げを示唆する発言が相次ぎ、3月の利上げが市場で意識されたことなどから、債券利回りは上昇(価格は下落)しました。

欧州債券市場(現地通貨ベース)は、米国の債券利回りの上昇につられたことや2月の独CPI(消費者物価指数)の前年比伸び率が市場予想を上回ったことなどから、ドイツ国債利回りは上昇しました。

為替は、2月24日比で円/ドルレートは円安・ドル高、円/ユーロレートは円安・ユーロ高となりました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 7-9日 米国債入札
- 8日 独鉱工業生産指数(1月)
- 9日 ECB(欧州中央銀行)金融政策
- 10日 英鉱工業生産指数(1月)
- 10日 米雇用統計(2月) など

	2017/2/24	2017/3/3	変化幅
米国10年国債利回り*	2.312%	2.478%	0.166%
ドイツ10年国債利回り*	0.186%	0.356%	0.170%

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

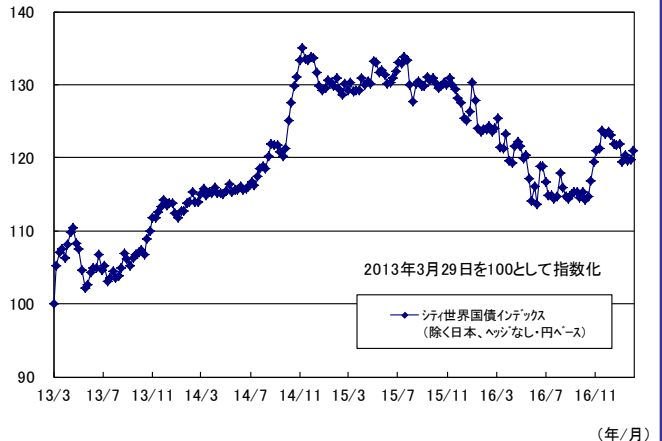
先週の騰落率

1.04%

先週の相場動向



<期間>2013年3月29日～2017年3月3日



シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	2017/2/24	2017/3/3	騰落率
	430.10	434.57	1.04%
円/ドル	112.35円	114.50円	1.91%
円/ユーロ	118.74円	120.94円	1.85%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関する全ての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

※ブルームバーグ・ジェネリック10年国債利回り

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。・REITとは、不動産投資信託証券を指します。

## 日本のREIT市場

### 市場の動向

日本のREIT市場(J-REIT市場)の代表的な指数である東証REIT指数は、2月24日比で1.47%下落しました。複数の公募増資が発表され需給環境の悪化が懸念されたことや、国内長期金利が上昇したことなどが背景にあります。

国土交通省が発表した1月の新設住宅着工戸数は、前年同月比12.8%増の76,491戸となりました。内訳では持家が減少したものの、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で増加となりました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 9日 毎月勤労統計(1月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

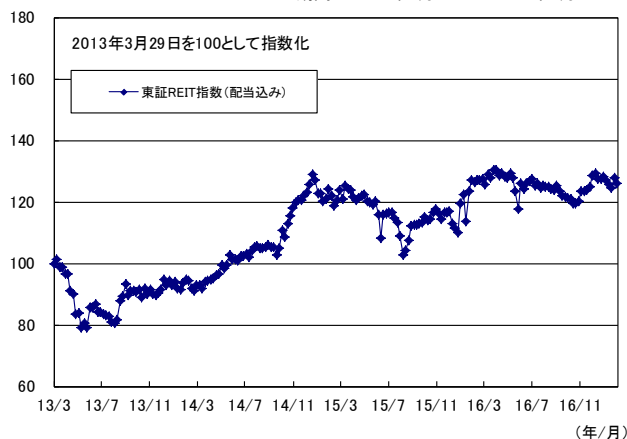
先週の騰落率

-1.47%

先週の相場動向



<期間>2013年3月29日～2017年3月3日



東証REIT指数(配当込み)	2017/2/24	2017/3/3	騰落率
	3,403.48	3,353.34	-1.47%

<出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成  
東証REIT指数の指数値及び東証REIT指数の商標は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」といいます。)の知的財産であり、東証REIT指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数に関するすべての権利及び東証REIT指数の商標に関するすべての権利は東証が有します。

## 世界のREIT市場

### 市場の動向

世界のREIT市場の代表的な指数であるS&P先進国REIT指数は、2月24日比円ベースで、0.54%上昇しました。

米国REIT市場(現地通貨ベース)は、12月のS&P・コアロジック/ケース・シラー・米20都市住宅価格指数が前年比で上昇するなどのポジティブなニュースもありましたが、トランプ米大統領の議会演説を見極めたいとの姿勢から利益確定の売りが見られたことや、米小売企業が発表した通期見通しの内容が失望されたことなどから、下落しました。

欧州REIT市場(現地通貨ベース)は、欧州株式市場の上昇に連れて、上昇しました。

豪州REIT市場(現地通貨ベース)は、1月の豪住宅建設許可件数が前月比で市場予想に反してプラスとなったことなどから、上昇しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 8日 独鉱工業生産指数(1月)
- 9日 ECB金融政策
- 10日 英鉱工業生産指数(1月)
- 10日 米雇用統計(2月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

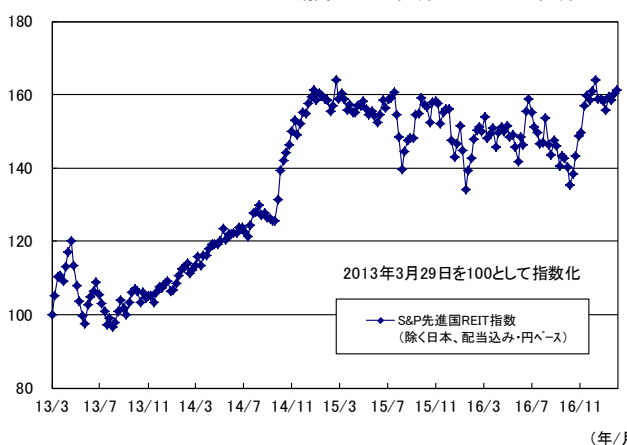
先週の騰落率

0.54%

先週の相場動向



<期間>2013年3月29日～2017年3月3日



S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み・円ベース)	2017/2/24	2017/3/3	騰落率
	936.67	941.70	0.54%
円/ドル	112.35円	114.50円	1.91%
円/ユーロ	118.74円	120.94円	1.85%

<指数出所>ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成  
<為替出所>当該日ロンドン時間16時発表のWMロイターの為替レートを基に野村アセットマネジメント作成

S&P先進国REIT指数はスタンダード&プアーズファイナンシャルサービシーズエルエルシーの所有する登録商標です。

## 新興国の株式市場

・下記で使用したデータは過去の実績であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。  
・市場の休場等の場合は前日の値を使用します。

### 市場の動向

新興国の株式市場の代表的な指数であるMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、2月24日比円ベースで、0.61%上昇しました。

中国株式市場(現地通貨ベース)は、米利上げ観測の高まりから金利引き上げ懸念が広がり不動産株が売られたことや、全国人民代表大会を控え様子見ムードとなったことなどから下落しました。

ロシア株式市場(現地通貨ベース)は、米政権による対ロシア融和政策への期待後退などから下落しました。

ブラジル株式市場(現地通貨ベース)は、原油価格の下落などから下落しましたが、その後反発し週間ではほぼ横ばいとなりました。

南アフリカ株式市場(現地通貨ベース)は、トランプ米大統領の議会演説を前にポジション調整売りなどから下落しましたが、2月の製造業PMIなどの好調な経済指標を受け反発し、週間ではほぼ横ばいとなりました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 7日 ブラジルGDP(10-12月期)
- 7日 南アフリカGDP(10-12月期)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

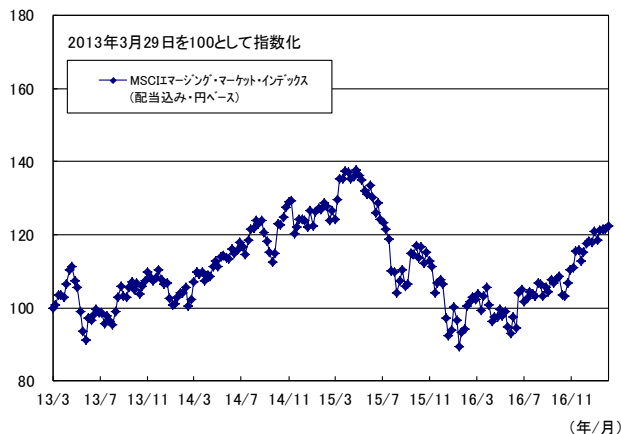
先週の騰落率

0.61%

先週の相場動向



<期間> 2013年3月29日～2017年3月3日



MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円ベース)	2017/2/24	2017/3/3	騰落率
	1,855.64	1,866.88	0.61%

<出所> FactSetからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した指数であり、同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

## 新興国の債券市場

### 市場の動向

新興国の債券市場の代表的な指数であるJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドは、2月24日比円ベースで、0.97%上昇しました。

ブラジルでは、中央銀行が2月の金融政策決定会合の議事録を公表しました。インフレ見通しと経済の状況に応じて利下げペースを加速する余地があることを示唆する内容となりました。このような環境下、同国の債券指数は上昇しました。

マレーシアでは、中央銀行が市場予想通り政策金利を据え置きました。金融政策は依然として緩やかなものであるとの見解を示す一方で、景気は今年拡大基調を維持し、インフレ率は上昇する見通しであるとの見解を示しました。このような環境下、同国の債券指数は下落しました。

### 今後発表予定の主な経済指標など

- 7日 南アフリカGDP(10-12月期)
- 7-9日 ロシアCPI(2月)
- 8日 トルコ鉱工業生産指数(1月)
- 9日 メキシコCPI(2月)

など

騰落率がプラスの場合: 😊

騰落率がマイナスの場合: 😞

騰落率が横ばいの場合: 😐

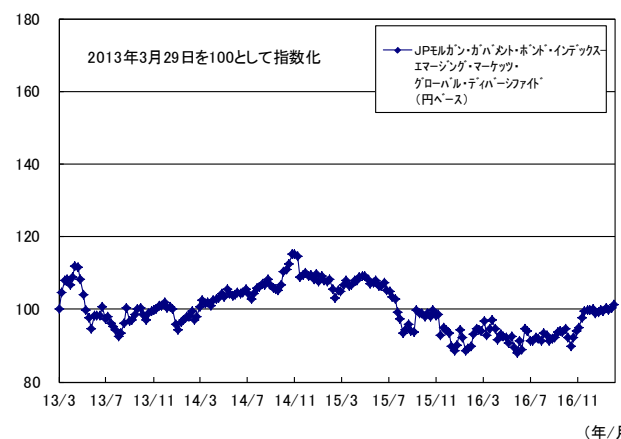
先週の騰落率

0.97%

先週の相場動向



<期間> 2013年3月29日～2017年3月3日



JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)	2017/2/24	2017/3/3	騰落率
	253.59	256.05	0.97%

<出所> ブルームバーグからのデータを基に野村アセットマネジメント作成

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (JP Morgan Government Bond Index - Emerging Markets Global Diversified) は、J.P. Morgan Securities LLCが公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

## 【野村アセットマネジメントからのお知らせ】

## ■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし、投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

## ■投資信託に係る費用について

2017年3月現在

<p>ご購入時手数料 《上限4.32% (税込み)》</p>	<p>投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。投資信託によっては、換金時(および償還時)に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。</p>
<p>運用管理費用(信託報酬) 《上限2.1816% (税込み)》</p>	<p>投資家はその投資信託を保有する期間に応じた費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 *一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 *ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。</p>
<p>信託財産留保額 《上限0.5%》</p>	<p>投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。</p>
<p>その他の費用</p>	<p>上記の他に、「組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。</p>

上記の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をご覧下さい。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

商号:野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第373号

加入協会:一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中の記載事項は、全て当資料作成時以前のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。当資料中のいかなる内容も将来の運用成果または投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。